留学報告レポート　　**建築学科1年　今野隆哉（1713119）　3/4～25(台湾・中原大学)**

①留学目的達成度は 80 パーセントである。今回留学した目的は二つ。一つは中国語を学ぶこと。もう一つは現地の建築を知って今後の学校生活に生かすことである。実際留学してみて、中国語はかなり上達した。 授業で学んだことをすぐ生活で活かせる環境にあるため習得が早い。現地の学生と生活を共にすることで更に応用した知識を身に付けることができる。留学前に一年間中国語の履修を取っていたが、それより圧倒的に身についた。三週間で成長を感じられ自分の意見も少し話せるようになったが、自分の言いたいことがうまく伝わらず悔しい思いをしたこともあった。そのため希望としてはもう少し学び、成長したかった。また建築についても知ることができた。現地は平屋建てが少なく基本的に3階以上の建物である。また台湾は湿気が多いため木造が少なくタイル張りが多い。台湾は風呂とトイレがセットなものが一般的で分けて設置する日本と少し違う。学校の校舎は年間を通じてあまり寒くならないためとても開放的な造りをしていた。今回大学の建築の先生に会う予定だったが、入院したため実現せず。そのため踏み込んだ知識は得られず、自らみて感じたことだけであった。

②意識変化は大いにあった。留学については、とても身近なものに感じるようになった。今までは留学はおろか海外に行ったことがなく自分とは遠く、無縁のものだと思っていた。だが実際留学すると沢山刺激が得られ経験することの大切さを感じた。台湾は飛行機で三時間ほどで着き、とても行きやすいことも身近に感じる原因でもある。学習については、留学前には帰国後も中国語学習しようという意欲はそこまで持っていなかったが、留学後はもっと勉強して話せるようになりたいと感じるようになった。なぜなら留学を通じて沢山の友達ができ、帰国後も交流を続けたいと思ったから。そのために帰国後も時間を見つけて勉学に励みたい。国際理解への意欲については持つようになった。国際的なものについては以前から興味を持っていたが、どうしても自分の視点からでしか考えられなかった。現地に行くことで客観的にみられるようになった。具体的には生活の違いや、食の違いである。台湾は基本的に外食をする。そのため夜市は毎日お祭り状態。また、台湾の飲み物は日本と比べて量が多く、とにかく甘い。自分の口に合わない物が多々あった。しかし、食べ物はおいしく飽きなかった。

③長期留学の意欲は持つようになった。今回三週間の留学はとても充実したものであった。しかし学習や知識の面でまだ足りないものがあるように感じる。長期留学を経験することで、更に充実したものを得られると考える。しかし長期留学をすると大学の授業にも影響が出てしまう。希望としては自己の大学に支障が出ないようにしたい。そのため長期留学ではなく、再度短期での留学を希望したい。

④今回このような機会を得られてとても良かった。大学からの支援を受けられると聞いてこの留学を決意した。中原大学はとても丁寧に私たちに生活を提供してくれた。授業に関しては、講師の先生が一人ひとりのレベルに合わせて指導して頂いた。参加型の授業で毎回意欲的に参加することができる。毎日小テストがあり覚えることがとても難しかった。今までの自分はやらされているという気持ちが強かったが、台湾に来てから自ら学びたいという意識が生まれ、日々のテストを意欲的に取り組む事ができた。また文化の講義では台湾の文化を学ぶことができた。具体的には武術であったり、食べ物に関してである。文化の講義で文化を学ぶと同時に中国語も学べた有意義な時間であった。日常生活では一人に対して二人中原の学生が付き、常に一緒に行動した。毎日夜遅くまで私たちと話しをしてくれたり、勉強を教えてくれたりして頂いた。全部で四日間自由時間があったが、その日は中原の学生が計画して様々なところに旅行に連れてってくれた。台南、台北など。中原の学生はホントは自分達より疲れているはずなのに、そのような表情は一切出さずいつも優しく、明るく私たちに接してくれた。三週間私たちのために、自己のことを沢山我慢して、対応してくれたことに感謝している。帰国後もまた台湾に行きたいという意思と、現地の学生に会いたいという希望が芽生えた。これらを実現するため、更なる中国語の上達ができるように取り組んでいきたい。

経営コミュニケーション学科2年　櫻下桃子

留学報告レポート

私は、今回の短期留学をするまで中国語がほとんど喋れなかった。唯一自分が知っていた中国語といえば、「ありがとう」という意味の「謝謝」、それから挨拶の「ニーハオ」だった。結論から述べると3週間での学びはとても多かったと感じる。

到着初日は全く喋れない中でも、英語を使いながら自分の名前や大学、そして自分が初めて海外に来たということなど簡単な自己紹介をすることができた。初めて出会った台湾の学生と中国語もほとんど喋れないのに3週間一緒に交流できるのかという緊張も少しあった。しかし、そんな私たちを温かく迎えてくれ、台湾の夜市という出店が多く立ち並ぶ場所に案内してくれた。数時間しか経っていないのに緊張は自然とほぐれていた。その日初めて「生煎包」という肉まんを小さくしたようなものと、タピオカミルクティーである。私はタピオカが好きだと伝えたところ、すぐに台湾で有名な「50嵐」というタピオカドリンク店を紹介してくれたのだ。しかし、初めは「タピオカ」という言葉が通じず戸惑った。私はどうにかして伝えようとジェスチャーや写真、片言の英語でようやく伝えることができた。

このように、言語がわからないため伝えたいことを伝える難しさを三週間で何度も経験した。日本ならお互い日本人同士で言語も理解でき、自分の言いたいことは簡単に伝えられる。台湾では、何がしたい・何を食べたい。などの意思表示にとても苦労した。だが、私の良いところは、何とかして伝えようとしたところだ。片言の中国語や英語をとにかく使った。また、相手の話が理解できないときは英語で教えてもらい、翻訳するアプリを使うなどして、理解しようとした。

自分も伝えたいからこそ、中国語の学習にも毎時間真剣に取り組んだ。この留学で来ていた日本の学生でも最低一年は中国語を勉強してきていた。勉強したことがなかった私は焦りとともにやる気も出た。台湾の学生との日常会話で聞いた言葉は、メモやボイスレコーダーに録音するようにした。それから、教科書で出てきた単語の発音や文章を教えてもらいながら、少しずつ日常会話もできるようになった。

留学前に比べ、台湾の文化や食べ物、生活についてもっと知りたいという興味が湧いた。留学する前の私は、台湾のことについてほとんど知らず、それどころか海外にも行ったことがなかった。海外について触れる機会といえば、テレビや雑誌・教科書ぐらいだった。しかも、ニュースに上がる話題は物騒な事件や日本との関係についてであり、「海外は何となく危なそう。」という漠然としたイメージであった。今回の留学は、そんなネガティブなイメージを変えるきっかけになったと感じる。どんな国でも実際に訪れ、自分の目で確かめ、聞いて、感じることで新しい発見や興味が湧く。そこで初めて、理解し考え直すきっかけにつながると考えた。

この三週間の短期留学では、もっと中国語や英語を喋れるようになりたいようになりたいという気持ちや、今の語学力ではまだまだだという焦りを感じた。日本では日本語だけでも生活には困らないため他の言語が喋れないことに危機感を感じていなかったため、今の自分のままで十分だと思っていた。この経験を通して、様々な国の人とコミュニケーションをとれるようになりたいという気持ちにさせられ、語学学習の意欲に繋がった。そして、他国にも留学したいと思った。そして、他国の学生と出会い、お互いの言語を学ぼうと思えるきっかけになるのではないかと考える。自分がしてきた体験や良さを自分の国に伝えていくことで国際理解にもつながるのではないかと考えた。

私は、この留学をきっかけに台湾を知り、好きになった。これからもこの気持ちを忘れずに次の留学に向けて頑張りたい。